

総 評

例年通り大問5題で構成され、各設問に5点配点の論述問題が配されている。出題形式内訳は記述問題4問(12点)、選択問題21問(63点)、論述問題5問(25点)であり、昨年と同様に記述問題は少なく、選択問題が中心に出題された。学年別の内訳は中1内容29点、中2内容40点、中3内容31点となり、分野別では地理37点、歴史38点、公民25点となっている。地理の配点が昨年と比べて5点増加、公民の配点が5点減少しており、歴史は昨年同様の配点となった。目立って難しい問題が多いというわけではないが、得点源となる平易な出題が極めて少ないことから、平均点は昨年に比べて低下し、55点程度になると予想される。

難易度・出題単元・解法のポイント

【第一問】世界地理 《普》 〈選択15点 論述5点〉 計20点

オセアニア州に関する出題。冬期講習会第2期で学習した知識をもとに正答を選ぶこと。表の読み取りは焦らず正確に。

1.(1):冬期講習会第2期で学習済み。地図も特に目新しいものではない。2, 3(1):グラフ・表の資料読解問題はレギュラー授業で特訓している。複雑な計算も必要なく、正答は容易。3.(2)②:資料をもとに、ニュージーランドの酪農における生産コストが低い利点を挙げる。農産物や工業製品における生産コストの論述を応用できると気付けるかが鍵となる。

【第二問】歴史 古代～近世 《普～やや難》 〈選択15点 論述5点〉 計20点

奈良時代～江戸時代における文化史を中心とした出題。選択問題に特に難しい設問はないが、論述問題が難しい。

文化史は秋期講習会の1テーマとして実施している。3:中世の戦乱に関する並べ替え問題。足利尊氏(室町)・後鳥羽上皇(鎌倉)・平氏(平安末期)と時代区分で処理が可能なので、落ち着いて解けば問題はない。5(2):江戸時代の株仲間に関する資料論述問題。歴史分野で初見の史料を出題するのは宮城県の定番であり、今年も例年に漏れず難易度が高い。幸い、資料はA・Bともに現代語でまとめられているため、設問をしっかりと確認し「江戸幕府にとっての利点」「本屋仲間にとっての利点」をそれぞれ読み取って文章にまとめれば良い。史料の読み取り・まとめ方は模試解説動画やレギュラー授業・実戦ゼミで繰り返し行っている。

【第三問】公民 生産と労働 《普～難》 〈記述3点 選択12点 論述5点〉 計20点

勤労の権利や企業の社会的責任(CSR)など、語句の暗記だけではなく、正確な意味の把握が必須。

2:「自分で職業を選んだり、職業を営んだりすることを保証する権利＝職業選択の自由」と判断できればよい。自己決定権・勤労の権利など、紛らわしい選択肢に注意。4:公民の並べ替え問題。「労働基準法＝戦後」「育児・介護休業法＝最近」とでもざっくり理解していることが重要。5:職場環境の整備と企業の社会的責任(CSR)のかかわりを問う論述問題。企業の社会的責任とは、企業が果たすべき責任のこと。「職場環境を整えることによって職場の働きやすさを向上させる」までは資料の読み取りで答えられるだろうが、「安定した雇用の確保」が企業の社会的責任であるという知識を受験生が持っているかは難しいだろう。

【第四問】地理・歴史融合 《普～難》 〈記述3点 選択12点 論述5点〉 計20点

東海地方に関する産業を中心とした地理・歴史の融合問題。選択問題が微妙な選択肢ぞろいで判別が難しい。

1(2):静岡県を判別する「茶」「みかん」のどちらも「その他」に含まれている嫌がらせに注意。三重県は実戦ゼミで複数回登場するため、ここで判別できれば良い。1(3):こちらも三重県の学習内容を覚えていれば判別可能。「駿河湾・伊勢湾」に惑わされず「静岡県・三重県」と考えることが重要。3(2):資料Dを見落としやすい。レギュラー授業での史料論述対策で資料を用いる論述に慣れていると、宮城県の論述問題としては平易な部類に入る。

【第五問】歴史・公民 《易～やや難》 〈記述6点 選択9点 論述5点〉 計20点

近現代の歴史に関する出題と、公民分野の融合問題。一問一答形式の記述問題が得点源になる。

4:戦後の日本経済の民主化から財閥解体→独占禁止法→公正取引委員会と連想する必要がある。選択肢に一捻り加えるのが最近の傾向を表している。5:超高齢社会に合わせた鉄道経営の改善に関する論述。資料も提示された順に扱えばよく、結論も明快。